

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400798		
法人名	医療法人社団聖和会		
事業所名	グループホーム グリーンライフ ヴィラ		
所在地	熊本県玉名郡長洲町宮野2772-18		
自己評価作成日	令和4年12月14日	評価結果市町村報告日	令和4年5月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木々に囲まれた静かな環境の中で、ゆっくりと過ごせる雰囲気がある家庭的なホームです。病院、老健が同敷地内に併設されており、看護師が週に一度訪問します。薬の不安には居宅療養管理指導に、病院併設の薬局から定期的に訪問があります。リハビリについては隣接するデイケアセンターから理学療法士の訪問があります。栄養面では老健の管理栄養士のアドバイスが受けられます。隣接するデイケアへの清掃活動や家事活動は、入居者様の仕事と位置づけ、他者に役立ちたいという気持ち大事にした取り組みです。心身の生活機能向上に向けて総合的な支援を行っています。お一人お一人の自らの行動を引き出し、意欲的に生活できる環境を提供します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年1月26日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来より、入居者お一人おひとりの生活を大切にされた支援が行われており、隣接する事業所での清掃活動や家事活動等、生き生きとした姿が見られる事業所です。残念ながらコロナ禍で以前のような日常的な幅広い活動は難しい状況が見受けられましたが、入居者だけの散歩や共用部分のお掃除等が続いていることを嬉しくうかがいました。管理者の「グループホームは家庭である」「ケアに迷った時には理念に戻る」の考えが職員面談でも共有されている様子が聞かれ、家庭的な雰囲気が大切にされています。入居者の日々の生活では、それぞれ力を発揮する場面作りが行われ、入居者自身がお茶を互いに入れて飲む姿も見られます。介護計画作成時には職員間でケアの統一に取組まれ、その中でも日々の変化に対する臨機応変なケア等に試行を重ね、共有できるよう、職員の働きやすい環境作り、チームワークも大切にされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者、ご家族、知人の方が安心して過ごせるよう心掛けている。	事業所では理念をケアの礎とし、管理者の「グループホームは家である」の考えのもと、日頃から悩んだ時には理念にかえる」ことを共有しケアにのぞんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少なく機会は少ないが、参加しやすい地域行事には声をかけていただくことがある。老健で開催されるお茶会や祭りに参加し、地域の方とのふれあいの機会となっている。(現在休止中)	現在はコロナ禍であり、以前のような入居者と地域が関わる機会作りが難しい状況であった。今年も地域よりどんどや等のお誘いを頂いたが、リスクレベルにより参加を検討し、参加には至らなかった。	感染症予防の観点から、従来のような機会作りが難しい状況が聞かれました。情勢が落ち着いた際には、入居者と地域との関わりを感じる機会作りの再開に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動に参加し、小中学校の認知症養成講座の補助を務める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており、主に活動報告、認知症関連の情報提供を行っている。今年度は感染症予防の面から書面報告での開催を行っている。	例年2ヶ月に1度、年6回の開催を基本としている。今年度は感染症予防により書面による報告を行った。	参加者集まっでの運営推進会議の開催が難しい状況がうかがえました。書類により事業所の取組みを報告されていますが、広く意見を集める工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加、キャラバンメイトの活動など、介護サービス事業所連絡会を通じたつながりができている。	例年運営推進会議への出席があるが、今年度は日頃の取組みを書面にて報告した。手続き変更等、必要時に出向く際には直接報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中オープンにしており、全スタッフも身体拘束をしない意識を持って、見守りや同行支援を行うなど取り組んでいる。	「家庭であること」を基本としており、日中は職員の安全確認のもと入居者だけでも自由に玄関を出ることもできる。身体拘束・虐待に関する研修を行っており、法人での勉強会ではオンラインでも参加した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連付けて勉強会で取り上げ、不適切な介護をしていないか確認している。		

グループホーム グリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業と併せて、研修会がある際は参加するようにしている。成年後見制度は利用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、入居時、又は介護保険改訂のときなどに説明を行い、納得していただいていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症予防の為運営推進会議や行事への参加は難しいが、面会時などお話しを伺い、申し送りスタッフと情報を共有している。	感染症リスクレベルによる面会方法の検討・工夫できるだけ受入れ、家族の意見・要望等を確認している。面会が難しい時期であっても家族へ連絡し、意見の出しやすい環境作りを行っている。家族アンケートでも家族・入居者に寄り添ったケアの様子が見られ満足度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	課題があるときは、その日の出勤者で話し合い、より良い支援の方法を検討したり、業務の改善を行っている。	日頃より職員は管理者へ意見や提案を述べることができる体制であり、日々変化する入居者の状況に対するケアの試行や職員からの提案も取入れている。必要に応じ随時職員間で話す機会も持つ。今年度の職員会議では、勤務体制による業務内容の見直しを議題とした回もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課のシステムがあり、職員の努力が評価されるよう整備されている。職員は、目標管理シートを活用し、目標達成に向けた取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整などを行い、外部研修を受ける機会を確保するようにしている。又、法人内においても研修が年に数回行われており、知識とスキルの向上に役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や勉強会等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は事前に面談を行い、本人の思いを傾聴します。これまでの暮らしが継続できる支援と一緒に考えます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の望みと、本人の思いの折り合いをつけ、橋渡しに努めます。家族との関係が途切れないように支援します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービスや利用状況を聞き、法人内の居宅サービスやリハビリなども紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、自発的に動かれる機会を大切にして、得意分野や希望の活動で力を発揮していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人にとってのご家族の位置づけを大切にしながら、役割を担っていただくことも多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、問題がなければ外出の機会を設けている。	従来のように気軽な来訪や外出による馴染みの関係支援が難しい状況であった。以前は職員の買い物外出時に同行する機会もあった。現在は家族との関わりが希薄にならなよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しており、状況に応じて気の合う方同士で活動をしたりしてお互いを支えている。		

グループホーム グリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院時は、面会や見舞に行くなどして関係を切らないようにしている。退去されたご家族と連絡を取り、その後のお話を伺うこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望は日常の関わりの中で、ある程度把握できており、可能な限り意向に添えるようにしたいと考えている。その都度、スタッフ間で話し合い、希望に添える支援を行っている。	日頃の職員寄り添いの中での会話等で思いや意向の把握を行っている。「選択」することを大切にされたケアを行っており、発語の少ない入居者には選択肢を提示する声掛け等で入居者の意思決定を促している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やサービス提供者から、情報を聞き取り把握するようにしており、入居後も本人、ご家族から日常生活の中で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の心身の状況を観察し、活動への参加は無理強いせずに、1日の過ごし方はその都度相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの要望をもとに、職員の意見を取り入れ、計画作成担当者が計画を作成している。定期的なモニタリングを行い、変化のあった際などには見直し、現状に即したプランを作成している。	日々の入居者の様子や家族の意見等は必要に応じて日々職員間で話合っている。モニタリングは毎月の会議時に全職員で意見を出し合い、ケアの統一を図っている。介護計画の見直しは半年・年一回と入居者の状況に合わせて行っており、状況変化時には都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はできるだけわかりやすいように、記入漏れがないように気をつけながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の能力や希望に添いながらデイケアへの湯飲み洗いや、台拭きなどの役割を果たす活動を行っている。(現在休止中)		

グループホーム グリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する老健、デイケア、薬局、スーパー等を地域資源と考え、協力を得ながら入居者のQOLの向上に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医があるならば、できるだけ継続していただくようにしている。ご家族の理解が得られれば、同法人の病院がかかりつけ医となり、連携をとって支援している。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診の支援を基本としており、現在殆どの入居者が協力医の受診である。協力医以外の医療機関受診は基本的に家族介助による通院をお願いしており、情報を共有している。訪問看護の受入れもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携の契約をしており、最低でも週に1回は看護師がホームを訪問し、状態の管理と情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会を頻回に行い、相談員や看護師から情報収集を行い、状態の把握に努めている。退院後の生活を重視したりハビリが行えるよう提案している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や、終末期に関する指針について説明しており、重度化した場合には、医師とご家族の間に入り、ムンテラの機会を作り、終末期についての要望を改めて確認し、できるだけ希望に添うようにしている。	入居時に重度化・終末期に関する事業所の考えや対応を説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には都度家族・関係機関と話し合いを重ね、現状では医療措置が必要となったり食事が入らない状況が続く等の状況になった際には入院を希望されるケースも多い。希望があれば看取りまでまで支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はできていないが、発生時の処置、対応はマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同での火災、地震についての訓練に加え、ホーム単独での職員、入居者合同での避難訓練を行っている。	敷地内の併設事業所と合同での避難訓練に参加した。現在、地震・凍結等自然災害、停電時の対応を課題ととらえている。	法人内事業所の協力も得られる環境ではありますが、自然災害等では事業所内職員での対応が必要な場面も多くなると思います。様々なケースを想定し、職員間での対策の共有に期待します。

グループホーム グリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人に合わせた、適切な対応を意識して行っている。	入居者一人ひとりに対し、日々の生活の中で自己決定や選択の場面作りを行えるような職員の声掛けを行っている。入居者の尊重とプライバシーの確保については虐待等の研修時にも触れ、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や、入浴の時間、活動への参加など、その都度相談している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや要望に合わせて、時折スタッフが提案し、選択していただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家事活動を行う方は、エプロンを用意し、自分でタンスから衣類を選択して着用される。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎の行事食や、手作りおやつを提供している。誕生日には本人の食べたい物や、家族からの情報で好みの食事を提供している。	職員手作りの食事は馴染みのある家庭料理で食べやすい献立を意識している。手作りであることから、入居者のその日の様子や体調にも臨機応変に対応している。年末やクリスマスには大皿料理、誕生日にはリクエストメニュー等、季節や好みも大切にしている。	入居者の身体状況に合わせた固さ等の対応や、ペースト状にて介助する際の言葉掛け等、個々に合わせた支援がなされている様子がうかがえました。食材高騰もあり会議で食事に関する議題がもたれた様子も聞かれましたが、是非今後も食事を生活の一部とし、入居者の楽しみが継続するよう期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量のチェックを行い、水分も定時に提供している。普通食で提供し、本人の状態に合わせて相談しながら、食材を切る、とろみをつけるなどして食べやすく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。自身で口腔ケアができない方には、義歯洗浄、口腔スポンジで口腔清掃の支援を行っている。		

グループホーム グリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに合わせたり、表情を見ながらトイレの声掛け、誘導を行っている。	入居者一人ひとりの身体状況によって個別に対応している。誘導が必要な場合は定期的な声掛けや表情による声掛け、拒否が見られる方には時間を置いて違う職員が声を掛ける等で対応している。夜間は必要に応じポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後にヨーグルトや、便秘の方には冷たい牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添うようにしている。	入居者によっては毎日の入浴を希望されることもあり、できるだけ希望に添うよう支援を行っている。普段シャワーを好まれる方が浴槽を利用される際にも臨機応変に対応している。入居者の持つ力を大切に支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて、午睡の時間を設けている。生活パターンがある程度できており、夜間は眠れていることが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カレンダーで確認を行っており、それぞれ理解できている。必要な方には、居宅療養管理を薬局と契約していただいている。服薬拒否がある場合には、薬剤師に助言をもらい工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動は、その方の能力に合わせ参加を促し、洗濯干し、畳み、調理などいきいきと過ごす時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	スーパーへの買い物支援、病院の売店の利用、その日に食べたい物の購入への同行など、外出を楽しめるよう工夫している。(現在休止中)	従来より、買い物への同行や併設事業所訪問、ドライブ等行っていたが、現在はコロナ禍のため以前のような気軽な外出が難しい状況が続いている。日々の敷地内の散歩は職員安全確認のもと、入居者単独・複数で出られることもある。春には花見ドライブに出向いた。	入居者の状況にもよりますが、コロナ禍前には隣接する事業所の手伝いや散歩、買い物同行等、入居者それぞれの生活が送られていました。面談中にも管理者から外気を感じる支援に向けての期待が感じられました。情勢が落ち着いた際には是非再開されることを願っています。

グループホーム グリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かの入居者に預かり金があり、外出時などに使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節、行事に応じた飾りつけを行い、日向ぼっこができるソファや、他者と離れて過ごせる場所も設けている。	リビングでは日中入居者の姿も良く見られる。体を動かしたりテレビスペースにはソファもあり、畳もある。陽当たりのよい廊下のソファもあり、思い思いの場所で過ごすことができる。廊下では掃除を手伝ってくださる入居者の姿もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端のソファを活用し、少人数で過ごしたり、日向ぼっこをされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた生活用品を持ち込んで頂いたり、電化製品やテーブルを持ち込まれている方もいる。家族の写真が置かれたり、これまでの生活を感じることができる。	洗面台が完備された居室には家族写真も見られ、手すりや滑り止め等、安全性にも配慮されている。現在入居者の身体状況も幅広く、より個別ケアが必要になっているが、安心・心地よく安全に生活を送れるよう生活用品の配置等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カウンターテーブルは低く、わかる方には施設できるトイレの使用や、ベランダに洗濯物が干せるようにしている。排泄後のバットの交換も、できる人にわかるように便座横に保管されている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グリーンライフヴィラ

作成日 令和 5年 3月 16日

### 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	火災のみならず、近年増加している様々な災害を想定した訓練を職員、利用者合同で行い、全職員に防災意識を持たせなければならない。	全職員が防災意識を高め、状況に応じた対応ができる。	火災、地震を主とした防災訓練・通報訓練・職員緊急連絡訓練。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。